



JSABs  
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.57

2012年9月28日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局 / 〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15 自由が丘産能短期大学内 TEL/FAX03-6809-7131(直通)

URL : <http://www.b-jitsumu.com> / e-mail: [business.jitumu@gmail.com](mailto:business.jitumu@gmail.com)

## 日本ビジネス実務学会 第31回全国大会統一テーマ 「ビジネス実務教育と就業力育成」

会長あいさつ

### 新たな節目を迎えるビジネス実務研究

日本ビジネス実務学会 会長 池内 健治 (自由が丘産能短期大学)



2012年6月の全国大会は、広島女学院大学の会場に多数の会員が集って研究成果を交換するとともに、交流を深めることができました。中国・四国ブロック研究会の皆さんには大変お世話になりました。

総会で申し上げたとおり、本学会はいくつかの課題を抱えています。まず、会員数の減少です。1997年度から学会員数が減少してきており、会費収入ベースでみると430名の会費収入にみあった運営体制を整備する必要がある点です。次に、これまで収益をあげてきたセミナー事業で継続的に収益をあげることが困難になっている点です。収入の減少のため、経常的な活動への経費のウェイトが相対的に大きくなって、収支バランスが崩れています。

一方、これまでの本学会における教育研究の蓄積が、就業力育成や初年次教育などの教育成果をあげるために有効に活用できる時代になっています。教育職に就いておられる学会員の方々は、個々の大学で教育における重要な役割を担っていらっしゃるようです。その意味から、本学会の教育研究の活性化の重要性は増しており、これまで以上に研究の成果をあげることが求められています。とくに、体

験学習を取り入れた授業 (Project Based Learning) や就業力育成を重視する高等教育の変革の中で、本学会の研究の意義は大きいものといえましょう。現在、高等教育の卒業生の働く現場が大きく変化し、サービス現場や中小企業などにおけるビジネス実務研究の必要性も高まっています。情報ネットワーク化の変化も激しく、ワーキングスタイルが転換しようとしており、求められるスキルも変わりつつあります。ビジネス実務を研修する者に新しい領域へのチャレンジが求められています。

このような中であって、2012年度の本学会の活動方針を次の2つとしました。

- ・教育研究の方向性を議論し、長期ビジョンと中期計画 (2013~2014年度) として提案する。
- ・収支のバランスのとれた学会運営を3年以内に構築するための提案を行う。

ぜひ、皆様にもその議論に加わっていただき、前会長の提唱されてきた「楽しくてためになる学会」を実現していきたいと考えています。

### Contents

会長あいさつ	1
全国大会実行委員長 あいさつ・報告	2
2011年度教授法助成研究報告	2
全国大会プログラム	3
基調講演「就業力育成に向けた大学の取組への期待」	4
開催校企画「グローバル人材育成の方向性」	5
シンポジウム「就業力育成に向けたビジネス実務教育における取組み事例」	6
研究発表	7
第32回全国大会のご案内	12
学会奨励賞	13
2012年度総会報告	14
2011年度決算報告、2012年度予算	15
事務局からのお知らせ	16